

# 愛知県美術品等共同収蔵庫整備基本計画(概要版)

## 1 現状と課題

愛知県において美術品等(以下「作品」という。)を収蔵している県立3施設の各本館(下表。以下、同。)は、いずれも築年数が30年を超えています。県立3施設は現在、作品の収蔵能力の限界を迎えつつあり、美術館活動の根幹である作品の保存及び収集等に支障が生じかねない状況です。県民の貴重な財産を守ることができるよう、早急に収蔵スペースを確保する必要があります。

そこで、全国初となる県立3施設共同で作品を保存するための施設(以下「共同収蔵庫」という。)を整備し、スケールメリットを活かして収蔵スペースを確保することとします。

施設名	愛知県美術館	愛知県陶磁美術館	愛知県立芸術大学
所在地	名古屋市東区東桜 1-13-2	瀬戸市南山口町 234	長久手市岩作三ヶ峯 1-114
開館・開設	1992(H4)年	1978(S53)年	1966(S41)年
延床面積 (施設全体)	109,062.07 m <sup>2</sup> (愛知芸術文化センター全体)	20,968.60 m <sup>2</sup>	51,159.76 m <sup>2</sup>
収蔵庫面積	1,823 m <sup>2</sup> (中二階を除く)	1,946 m <sup>2</sup> (中二階を除く)	536 m <sup>2</sup>
所蔵品数 (2025年4月1日現在)	約9,100件	約8,800件	約1,900件
所蔵品の 増加傾向	約120件/年	約170件/年	約10件/年
所蔵品群	日本画、絵画、版画、デッサン、書、彫刻、工芸、考古資料、映像、写真等	陶磁、陶磁文化に関連する工芸(漆器、金工、木工等)、考古資料、その他(絵画、書等)	日本画、油画、版画、デッサン、彫刻、陶磁、音楽資料等

- 〈参考〉・全国で6～7割の美術館・博物館において収蔵スペースに課題あり  
・愛知県内の公立・私立美術館等においても7割の美術館等において同様の課題あり

## 2 整備計画地

【所在地】常滑市奥栄町 1-168 他



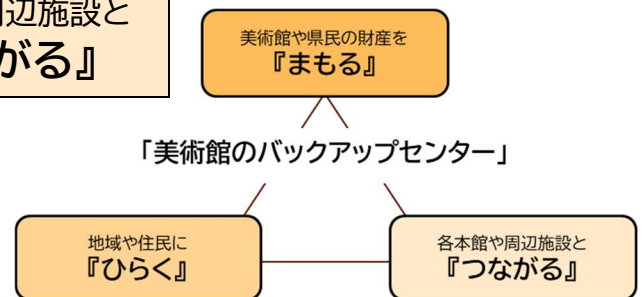
【敷地面積等】約 59,000 m<sup>2</sup>、標高約 20m



### 3 共同収蔵庫の目指す姿

既存の収蔵機能を補完するだけでなく、作品の「保存」という美術館の基本的活動の一面を広く知っていただくための重要な役割を果たす施設として、「まもる」「ひらく」「つながる」のコンセプトのもと、愛知の文化芸術の魅力を一層高める「美術館のバックアップセンター」を目指します。

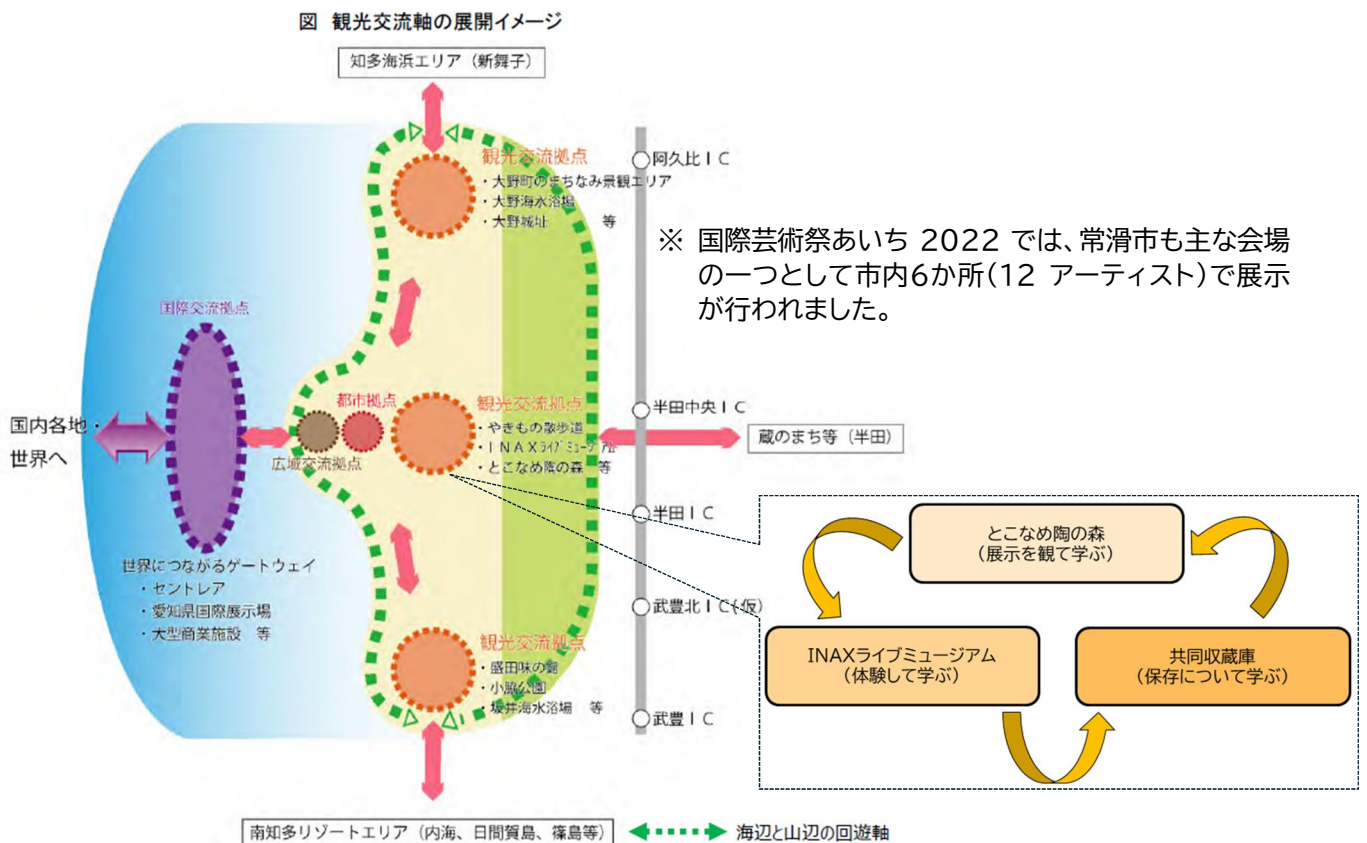
役割	コンセプト
① 県立3施設の適切な管理レベル・方針を尊重し、各本館から離れた場所でも効率的に作品を保存する。	美術館や県民の財産を『まもる』
② 収蔵環境の一部公開による教育普及を図る。	地域や住民に『ひらく』
③ 地域との調和性・周遊性を確保しながら相乗効果を図る。	各本館や周辺施設と『つながる』



#### 〈周辺の文化施設との連携〉

常滑市都市計画マスタープランでは、「観光交流軸」を形成し、「これまで以上の交流人口の拡大と、都市のにぎわいや活力の創出を図ります。」とされています。

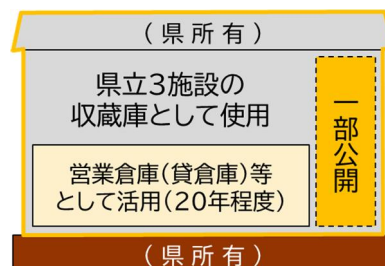
共同収蔵庫の整備計画地から半径1km 圏内には「INAX ライブミュージアム」や「とこなめ陶の森」が位置することから、これらの既存施設との周遊性を確保し、相乗効果を図ります。





## 4 共同収蔵庫の機能

- 県立3施設共同の収蔵施設としてスケールメリットを活かして収蔵スペースを確保するとともに、優れた収蔵環境を構築します。
- 県立3施設の各本館では見ることのできない「美術館活動の裏側」を公開することにより、収蔵庫における保存の取組について学べる機会を提供します。
- 供用開始後 20 年程度、共同収蔵庫の一部で県立3施設以外の作品も保存できる諸室構成とします。



県立3施設の各本館と共同収蔵庫をそれぞれ効率的に活用するため、作品の保存にあたっての考え方を整理しています。

県立3施設の各本館で保存される作品の想定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国指定重要文化財のほか、県立3施設を象徴する作品</li> <li>・新たに取得した作品</li> </ul>
共同収蔵庫で保存される作品の想定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型の作品等、現在の収蔵庫では効率的な保存が難しい作品</li> <li>・運搬時の損壊リスクが少ない作品</li> <li>・県立3施設間や周辺施設との相互活用に資する作品</li> </ul>

### 〈参考〉現在の収蔵環境等



油彩画



日本画



彫刻等



工芸品



大型作品



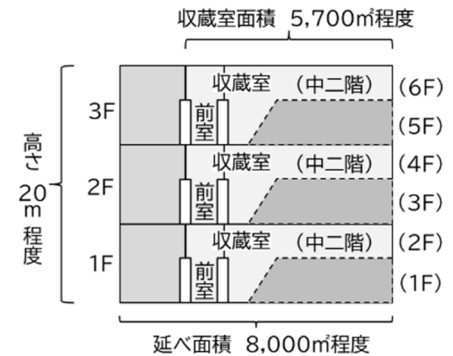
修復室

## 5 敷地計画及び建物配置イメージ



### 〈施設規模の目安〉

延べ面積	8,000 m <sup>2</sup> 程度
収蔵室面積	5,700 m <sup>2</sup> 程度
高さ	3階建相当(20m程度)



今後40年にわたり貴重な作品を適切に保存するために必要な収蔵面積の確保を目指します。

※ 現時点の施設整備イメージを整理すると右図のようになりますが、これは必要となる機能を配置したイメージであり、今後の検討を踏まえて対応を図るものであるため、整備内容を決定したものではありません。



## 6 事業手法及びスケジュール

事業の実施にあたっては、民間のノウハウや創意工夫による効率化を図るため、設計・建設・維持管理・運営を包括的に発注するPFI(BTO)方式により実施することとします。なお、本事業では維持管理・運営期間を20年と想定しています。

PFI(BTO)方式の導入を通じて、「まもる」「ひらく」「つながる」の3つのコンセプトを実現するほか、共同収蔵庫のさらなる魅力向上を図るための事業提案が得られることを期待しています。

スケジュールは、現時点では以下のとおり想定していますが、今後、変更する可能性があります。

